

シ ラ バ ス

— 授業をよりよく理解するために —

(1 年 生)

2 0 2 4 年度

大阪公立大学工業高等専門学校

目 次

ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーとシラバスについて……………	1
------------------------------------	---

教育課程表・科目系統樹……………	4
------------------	---

シラバス（1年）

一 般 科 目……………	19
--------------	----

専門共通科目……………	35
-------------	----

ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーとシラバスについて

教務担当副校長 西岡 求

大阪公立大学高専の本科では「機械系と電子情報系の高い専門知識を身につけ、かつ地域と社会からの要請と自分がなすべき役割を認識し、自分と社会のより良いあり方を探求できる技術者」を育成します。このような技術者を育成するため、卒業時までには身に付けるべき学力や資質・能力を卒業認定方針（ディプロマポリシー）として定め、規定の単位を修得した学生に対し卒業を認定しています。修了認定方針（ディプロマ・ポリシー）で示された「総合工学システム学科において卒業の認定を受ける学生が修得すべき能力」DP-A～DP-E の修得を達成するため、どのような科目をどの学年で修得するかを定めたものが教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）です。カリキュラムポリシーで定められた方針により教育課程表が作成されています。

「シラバス」には、【授業概要】【授業の進め方】【科目の達成目標】【授業の内容】【授業時間外の学習】【履修上の注意点】【成績評価の方法】【関連科目】【教科書等】【参考書】などが明示されています。なお、【成績評価の方法】の欄で、「定期試験」とは前期末および学年末試験のことであり、それに前期と後期の中間試験を加えたものを「試験」としています。本校におけるすべての科目の授業は「シラバス」に従って実施されますので、学生の皆さんは、「シラバス」の内容を十分理解し、特に教育プログラムや教育課程の中での科目の位置づけと相互関係、科目の達成目標などを明確に認識した上で、日々の勉学に励んでください。

卒業認定方針（ディプロマ・ポリシー）

本校は、その教育目標と養成する人材像のもと、機械系と電子情報系の高い専門知識を身につけ、かつ地域と社会からの要請と自分がなすべき役割を認識し、自分と社会のより良いあり方を探求できる技術者を育成します。そのため、以下に示す能力を修得し、規定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。

総合工学システム学科において卒業の認定を受ける学生が修得すべき能力

【DP-A】豊かな教養をもとに、共生社会の実現を探究し行動する能力

【DP-B】数学、自然科学および情報技術の基礎知識およびそれらを利活用する能力

【DP-C】産業社会における自分の役割を認識し、そこで活躍するためのコミュニケーション能力

【DP-D】自己の基盤となる専門分野について実践的な知識と技術※を修得し、工学的諸問題に適用する能力

【DP-E】社会の変化に関心を持ち、専門分野と周辺領域について主体的・継続的に学習する姿勢と能力

※各基盤コースにおいて修得すべき知識と技術

<エネルギー機械コース>

- ・エネルギー創出システムをはじめとする機械をシミュレーションや工作機械により設計・製作し、その機能や性能を検証する実践的能力
- ・機械設計系、エネルギー系および計測制御系からなる機械工学関連の専門知識

<プロダクトデザインコース>

- ・最新のものづくりに不可欠なデジタルエンジニアリング技術(CAD/CAM/CAE/CNC)を利用した製品の設計製作を行い、その付加価値を多角的に評価し考察する実践的能力
- ・基礎力学系、製品設計系、メカトロニクス系および生産設計系からなる設計生産工学関連の専門知識

<エレクトロニクスコース>

- ・電気・電子回路を理論に基づいて自ら設計・製作し、計測・制御技術を用いることで材料の特性や電気・電子機器の動作を評価し考察する実践的能力
- ・電気・電子回路系、電子材料系および計測・制御系からなる電気電子工学関連の専門知識

<知能情報コース>

- ・情報工学の理論と要素技術に基づきシステムを設計・実装し、仕様に沿って機能や性能を検証する実践的能力
- ・ソフトウェア系、ハードウェア系および応用情報科学系からなる情報工学関連の専門知識

教育課程の編成方針(カリキュラム・ポリシー)

本校は修了認定方針(ディプロマ・ポリシー)で示された「総合工学システム学科において卒業の認定を受ける学生が修得すべき能力」DP-A～DP-E の修得を達成するため、次の方針で教育課程を編成します。

【CP-A】豊かな教養をもとに、共生社会の実現を探究し行動する能力を涵養するため、一般科目として社会系科目・健康体育系科目・芸術系科目の3科目群とSDGs志向の専門共通科目を配置します。

【CP-B】数学、自然科学および情報技術の基礎知識およびそれらを活用する能力を涵養するため、一般科目として数学・物理・化学・生物から構成される理数系科目と、専門共通科目として情報系科目と応用数学・物理科目を配置します。

【CP-C】産業社会における自分の役割を認識し、そこで活躍するためのコミュニケーション能力を涵養するため、一般科目として国語、外国語科目を、技術系英語科目を専門共通科目として配置します。

【CP-D】自己の基盤となる専門分野について実践的な知識と技術を修得し、工学的諸問題に適用する能力を涵養するため、各コースに最適化した基盤専門科目を配置します。

<エネルギー機械コース>

機械設計系、エネルギー系および計測制御系からなる機械工学とエネルギー工学関連の知識と技術について、工学的な基礎知識から産業への応用までを視野に入れて体系的・効率的に修得できる講義科目を配置します。また、講義科目で学んだ知識と技術について理解を深化・定着させるとともに、それを活用した実践的な設計、製作、解析および評価を他者と協働して取り組む経験と能力を養うために実験実習科目を配置します。

<プロダクトデザインコース>

基礎力学系、製品設計系、メカトロニクス系および生産設計系からなる機械工学と生産工学関連の知識と技術について、工学的な基礎知識から産業への応用までを視野に入れて体系的・効率

的に修得できる講義科目を配置します。また、講義科目で学んだ知識と技術について理解を深化・定着させるとともに、それを活用した実践的な設計、製作、解析および評価を他者と協働して取り組む経験と能力を養うために実験実習科目を配置します。

<エレクトロニクスコース>

電気電子工学系、電子材料・電気化学系および計測技術・制御技術系からなる電気電子工学関連の知識と技術について、工学的な基礎理論から産業応用までを体系的・効率的に修得できるように講義科目を配置します。また、講義科目で学んだ知識と技術について理解を深化・定着させるとともに、それを活用した実践的な設計、実装、解析および検証を他者と協働して取り組む経験と能力を養うために実験実習科目を配置します。

<知能情報コース>

ソフトウェア系、ハードウェア系および応用情報科学系からなる情報工学関連の知識と技術について、数学的な基礎理論から産業応用までを体系的・効率的に修得できるように講義科目を配置します。また、講義科目で学んだ知識と技術について理解を深化・定着させるとともに、それを活用した実践的な設計、実装、解析および検証を他者と協働して取り組む経験と能力を養うために実験実習科目を配置します。

【CP-E】社会の変化に関心を持ち、専門分野と周辺領域について主体的・継続的に学習する姿勢と能力を涵養するため、基盤コースで修得した専門知識と技術の活用を将来の職業像として意識するための応用専門科目を設定し、材料・バイオテクノロジー・環境分析・環境デザイン・社会基盤・防災などの幅広い科目を社会の状況に合わせて提供するとともに、異なるバックグラウンドを持つ学生が協力して取り組む PBL 科目を展開します。さらに主体的な学習を促す総合的な課題実習と、課題の解決プロセスとその成果を表現する能力を身につけることを目的とした卒業研究を配置します。

授業科目に係る単位修得の認定は主に試験（中間試験、定期試験）と平常成績（小テスト、課題提出、発表など）により総合的に認定しますが、科目等によっては、レポート・発表等の評価結果により認定します。なお、授業科目の成績評価は 100 点満点及び可否で行い、合・秀・優・良・可を合格、否・不可を不合格とし、合格の場合は単位を認定します。

点数	評価	基準
90 点以上から 100 点	秀(合)	達成目標を十分に達成できている優れた成績
80 点以上から 90 点未満	優(合)	達成目標を十分に達成できている成績
70 点以上から 80 点未満	良(合)	達成目標を達成できている成績
60 点以上から 70 点未満	可(合)	達成目標を最低限達成できている成績
60 点未満	不可(否)	達成目標を達成できていない成績

教 育 課 程 表

科 目 系 統 図

教育課程表

一般科目教育課程表(コース共通)【2022(令和4)年入学者以降に適用】

授業科目		単位	学年配当					履修	必修得	学修単位	卒業要件	備考
			1年	2年	3年	4年	5年					
人文社会系科目	国語1	2	2					必			DP-C	
	国語2	2		2				必			DP-C	
	国語3	2			2			必			DP-C	
	言語と文化	2				2		必			DP-C	
	社会1	2	2					必			DP-A	
	社会2	2		2				必			DP-A	
	社会3	2			2			必		○	DP-A	
	現代社会論	2				2		必		○	DP-A	
	法律	2					2	選		○	DP-A	いずれか1科目選択可能
	経済	2						選		○	DP-A	
理数系科目	心理学	2						選		○	DP-A	
	基礎数学A	2	2					必	○		DP-B	
	基礎数学B	2	2					必	○		DP-B	
	基礎数学C	2	2					必	○		DP-B	
	微分積分1	2		2				必			DP-B	
	微分積分2	2		2				必			DP-B	
	ベクトル・行列	2		2				必			DP-B	
	解析1	2			2			必			DP-B	
	解析2	2			2			必			DP-B	
	線形代数・微分方程式	2			2			必			DP-B	
	確率統計	2				2		必		○	DP-B	
	基礎物理1	2	2					必			DP-B	
	基礎物理2	2		2				必			DP-B	
	基礎物理3	2			2			必			DP-B	
	現代物理学概論	2					2	選		○	DP-B	
	化学1	3	3					必			DP-B	
	化学2	2		2				必			DP-B	
	生物	2		2				必			DP-B	
保健・体育	保健・体育1	2	2					必			DP-A	
	保健・体育2	2		2				必			DP-A	
	保健・体育3	2			2			必			DP-A	
	保健・体育4	2				2		必			DP-A	
外国語科目	英語1	2	2					必			DP-C	
	英語2	2	2					必			DP-C	
	英語3	2		2				必			DP-C	
	英語4	2		2				必			DP-C	
	英語5	2			2			必			DP-C	
	英語6	2				2		必		○	DP-C	
	英語表現1	2	2					必			DP-C	
	英語表現2	2		2				必			DP-C	
	英語表現3	2			2			必			DP-C	
	英語A	2				2		選			DP-C	いずれか1科目選択可能
	英語B	2						選			DP-C	
	中国語	2						選			DP-C	
	ドイツ語	2						選			DP-C	
芸術	音楽	2	2					選必			DP-A	いずれか1科目選択
	美術	2						選必			DP-A	
	書道	2						選必			DP-A	
開設単位数合計		99	29	24	18	18	10					
必修履修科目単位数		75	23	24	18	10	0					
選択必修履修科目単位数		6	6	0	0	0	0					
選択履修科目単位数		18	0	0	0	8	10					
修得可能学修単位数		12	0	0	2	6	4					
修得可能単位数合計		83	25	24	18	12	4					
実践数学		2				2		選			DP-B	編入生対象

教育課程表

専門共通科目教育課程表(コース共通)【2022(令和4)年入学者以降に適用】

授業科目		単位	学年配当					履修	必修得	学修単位	卒業要件	備考
			1年	2年	3年	4年	5年					
専門共通科目	総合工学システム概論	1	1					必	○		DP-D	
	総合工学システム実験実習	4	4					必	○		DP-D	
	情報1	2	2					必		○	DP-B	
	情報2	2		2				必		○	DP-B	
	情報3	2			2			必		○	DP-B	
	ダイバーシティと人権	1	1					必			DP-A	SDGs科目
	多文化共生	1				1		必			DP-A	SDGs科目
	労働環境と人権	2					2	必		○	DP-A	SDGs科目
	技術倫理	2					2	必		○	DP-A	SDGs科目
	システム安全入門	1					1	選			DP-A	SDGs科目
	環境システム工学	1					1	選			DP-A	SDGs科目
	資源と産業	1					1	選			DP-A	SDGs科目
	環境倫理	1					1	選			DP-A	SDGs科目
	応用数学A	2				2		必			DP-B	
	応用数学B	2				2		必			DP-B	
	物理学A	2				2		必		○	DP-B	
	物理学B	2				2		必		○	DP-B	
	計測工学	2					2	必		○	DP-D	
	技術英語	2					2	必		○	DP-C	
開設単位数合計		33	8	2	2	9	12					
必修科目単位数		29	8	2	2	9	8					
選択履修科目単位数		4	0	0	0	0	4					
修得可能学修単位数		18	2	2	2	4	8					
修得可能単位数合計		33	8	2	2	9	12					

	防災リテラシー	1		1				選			DP-A	SDGs科目
	総合課題実習1	1		1				選			DP-E	同一学年においていずれか1科目選択可能
	総合課題実習2	1			1			選			DP-E	
	総合課題実習3	1				1		選			DP-E	

特別活動教育課程表(コース共通)【2022(令和4)年入学者以降に適用】

特別活動	単位 時間	学年配当					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
	90	30	30	30			

教育課程表

基盤専門科目教育課程表(エネルギー機械コース)【2022(令和4)年入学者以降に適用】

エネルギー機械コース 授業科目	単位	学年配当					履修	必修得	学修 単位	卒業 要件	備考
		1年	2年	3年	4年	5年					
機械工学概論	1		1				必			DP-D	
基礎製図	2		2				必			DP-D	
電気・電子回路	1		1				必			DP-D	
シーケンス制御	1		1				必			DP-D	
機械工作実習1	4		4				必	○		DP-D	
材料力学入門	1			1			必			DP-D	
熱力学入門	1			1			必			DP-D	
流体力学入門	1			1			必			DP-D	
機械工作法	2			2			必		○	DP-D	
CAD製図	2			2			必		○	DP-D	
機械設計製図	2			2			必		○	DP-D	
機械工作実習2	4			4			必	○		DP-D	
材料力学	2				2		必			DP-D	
熱力学	2				2		必			DP-D	
流れ学	2				2		必			DP-D	
機械力学	2				2		必		○	DP-D	
材料学	2				2		必		○	DP-D	
数値計算	2				2		必		○	DP-D	
エネルギー機械実験1	4				4		必	○		DP-D	
機械設計	2					2	必			DP-D	
伝熱工学	2					2	必		○	DP-D	
流体工学	2					2	必		○	DP-D	
生産加工工学	2					2	必		○	DP-D	
制御工学	2					2	必		○	DP-D	
エネルギー変換工学	2					2	必			DP-D	
エネルギー機械実験2	2					2	必	○		DP-D	
卒業研究	6					6	必	○		DP-E	
開設単位数合計	58	0	9	13	16	20					
必修科目単位数	58	0	9	13	16	20					
修得可能学修単位数	20	0	0	6	6	8					
修得可能単位数合計	58	0	9	13	16	20					

教育課程表

基盤専門科目教育課程表(プロダクトデザインコース)【2022(令和4)年入学者以降に適用】

プロダクトデザインコース 授業科目	単位	学年配当					履修	必修得	学修 単位	卒業 要件	備考
		1年	2年	3年	4年	5年					
プロダクトデザイン概論	1		1				必			DP-D	
製図基礎	2		2				必			DP-D	
プログラミング基礎	1		1				必			DP-D	
機械工作法	1		1				必			DP-D	
機械工作実習	4		4				必	○		DP-D	
工業力学	1			1			必			DP-D	
CAD設計製図	2			2			必			DP-D	
材料学	2			2			必		○	DP-D	
加工学	2			2			必		○	DP-D	
ユニバーサルデザイン	2			2			必		○	DP-D	
生産機械実習	4			4			必	○		DP-D	
材料力学	2				2		必			DP-D	
熱力学	2				2		必			DP-D	
流体力学	2				2		必			DP-D	
機械力学	2				2		必		○	DP-D	
メカトロニクス	2				2		必		○	DP-D	
ロボット工学	2				2		必		○	DP-D	
プロダクトデザイン実験	4				4		必	○		DP-D	
機械設計	2					2	必			DP-D	
プロダクトデザイン	2					2	必		○	DP-D	
CAM/CAE	2					2	必		○	DP-D	
生産システム工学	2					2	必		○	DP-D	
感性工学	2					2	必		○	DP-D	
制御工学	2					2	必			DP-D	
プロダクトデザイン実習	2					2	必	○		DP-D	
卒業研究	6					6	必	○		DP-E	
開設単位数合計	58	0	9	13	16	20					
必修科目単位数	58	0	9	13	16	20					
修得可能学修単位数	20	0	0	6	6	8					
修得可能単位数合計	58	0	9	13	16	20					

教育課程表

基盤専門科目教育課程表(エレクトロニクスコース)【2022(令和4)年入学者以降に適用】

エレクトロニクスコース 授業科目	単位	学年配当					履修	必修得	学修 単位	卒業 要件	備考
		1年	2年	3年	4年	5年					
エレクトロニクス概論	1		1				必			DP-D	
電気設備	1		1				必			DP-D	
電気回路1	1		1				必			DP-D	
電子回路1	1		1				必			DP-D	
電気電子材料1	1		1				必			DP-D	
エレクトロニクス実験実習	4		4				必	○		DP-D	
電気回路2	1			1			必			DP-D	
電磁気学1	2			2			必			DP-D	
電気電子材料2	2			2			必		○	DP-D	
半導体工学1	2			2			必		○	DP-D	
工学設計演習	2			2			必		○	DP-D	
エレクトロニクス実験1	4			4			必	○		DP-D	
電子回路2	2				2		必			DP-D	
電気回路3	2				2		必			DP-D	
電磁気学2	1				1		必			DP-D	
電気電子材料3	2				2		必		○	DP-D	
半導体工学2	2				2		必		○	DP-D	
コンピュータ工学基礎	2				2		必		○	DP-D	
制御工学1	1				1		必			DP-D	
エレクトロニクス実験2	4				4		必	○		DP-D	
制御工学2	1					1	必			DP-D	
電気機器	1					1	必			DP-D	
電力技術	2					2	必		○	DP-D	
パワーエレクトロニクス	2					2	必		○	DP-D	
信号処理	2					2	必		○	DP-D	
電気化学	1					1	必			DP-D	
センサー工学	2					2	必		○	DP-D	
ワイヤレス技術	1					1	必			DP-D	
エレクトロニクス実験3	2					2	必	○		DP-D	
卒業研究	6					6	必	○		DP-E	
開設単位数合計	58	0	9	13	16	20					
必修科目単位数	58	0	9	13	16	20					
修得可能学修単位数	20	0	0	6	6	8					
修得可能単位数合計	58	0	9	13	16	20					

教育課程表

基盤専門科目教育課程表(知能情報コース)【2022(令和4)年入学者以降に適用】

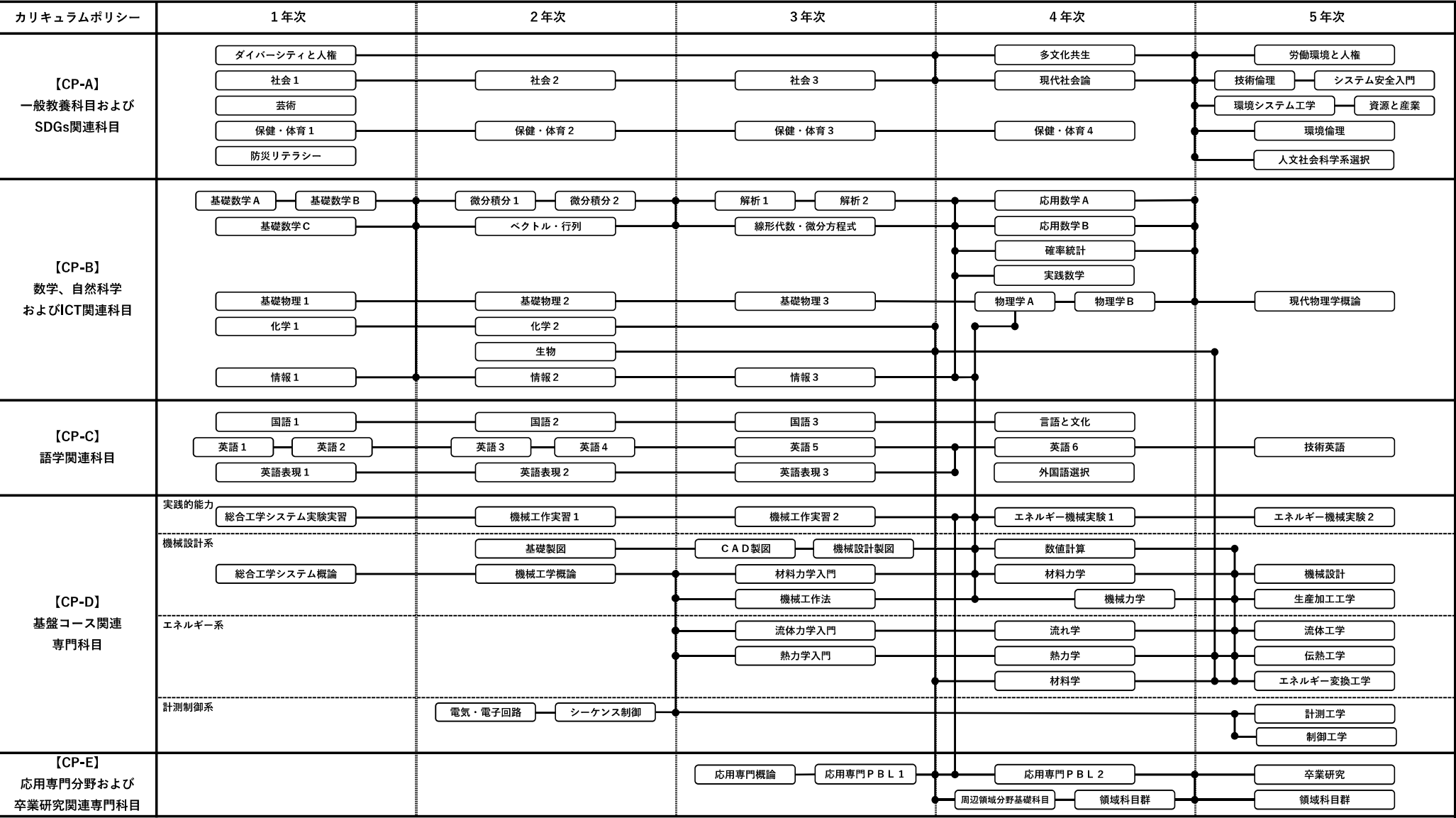
知能情報コース 授業科目	単位	学年配当					履修	必修得	学修 単位	卒業 要件	備考
		1年	2年	3年	4年	5年					
メディアデザイン入門	1		1				必			DP-D	
論理回路1	1		1				必			DP-D	
マイクロコンピュータ	1		1				必			DP-D	
プログラミング1	2		2				必			DP-D	
工学基礎実習	4		4				必	○		DP-D	
プログラミング2	2			2			必		○	DP-D	
プログラミング3	2			2			必		○	DP-D	
アルゴリズムとデータ構造1	1			1			必			DP-D	
論理回路2	1			1			必			DP-D	
電気電子回路1	1			1			必			DP-D	
知識科学概論	2			2			必		○	DP-D	
知能情報実験実習1	4			4			必	○		DP-D	
アルゴリズムとデータ構造2	2				2		必		○	DP-D	
電気電子回路2	2				2		必		○	DP-D	
データベース工学	2				2		必		○	DP-D	
マルチメディア情報処理	2				2		必			DP-D	
情報通信ネットワーク	2				2		必			DP-D	
コンピュータシステム	2				2		必			DP-D	
知能情報実験実習2	4				4		必	○		DP-D	
オートマトンと形式言語	2					2	必		○	DP-D	
ソフトウェア工学	2					2	必		○	DP-D	
知能情報実験実習3	2					2	必	○		DP-D	
オペレーティングシステム	2					2	必		○	DP-D	
人工知能	2					2	必			DP-D	
情報理論	2					2	必		○	DP-D	
コンピュータアーキテクチャ	2					2	必			DP-D	
卒業研究	6					6	必	○		DP-E	
開設単位数合計	58	0	9	13	16	20					
必修科目単位数	58	0	9	13	16	20					
修得可能学修単位数	20	0	0	6	6	8					
修得可能単位数合計	58	0	9	13	16	20					

教育課程表

応用専門科目教育課程表(コース共通)【2022(令和4)年入学者以降に適用】

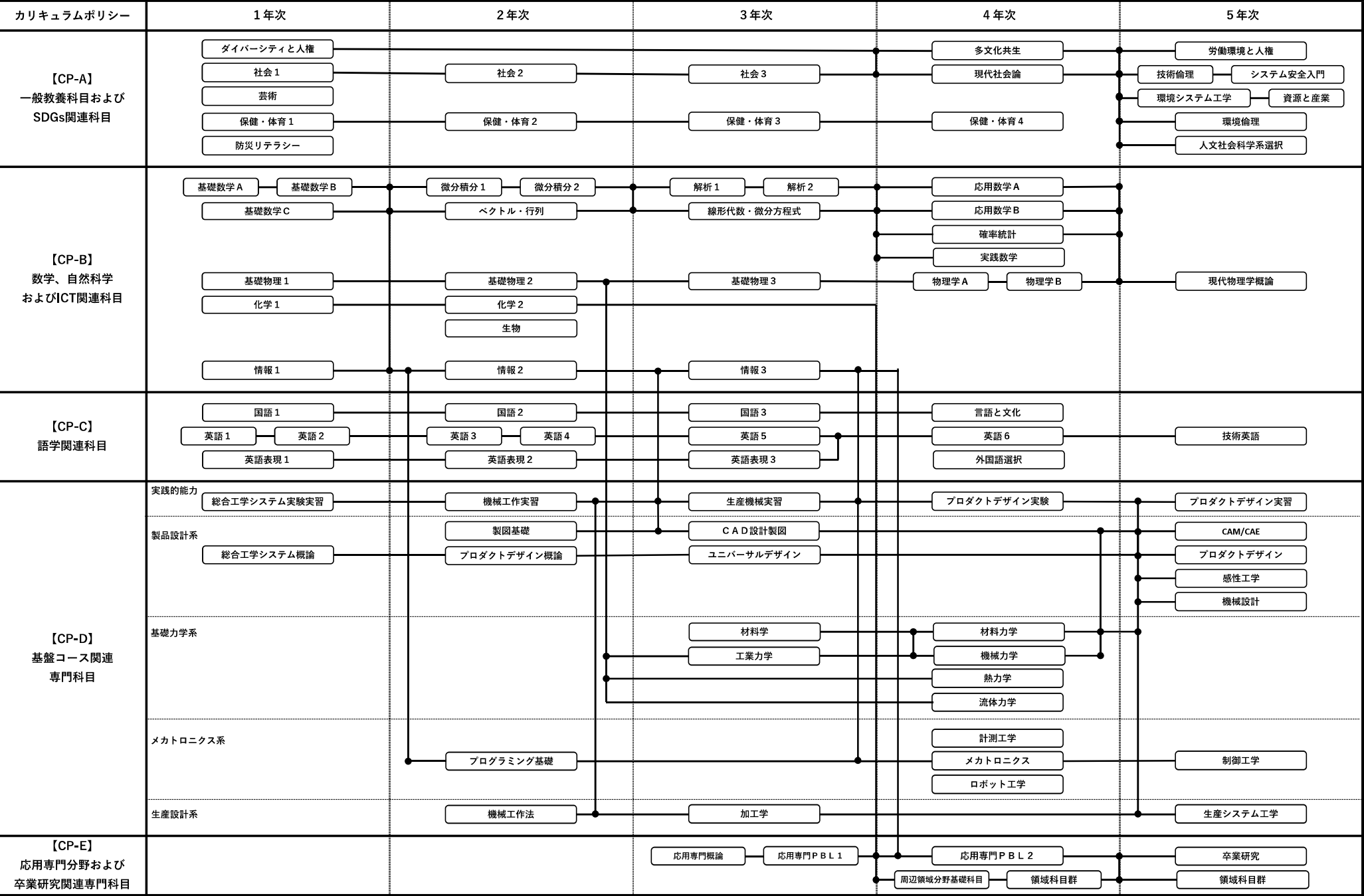
授業科目		単位	学年配当					履修	必修得	学修 単位	卒業 要件	備考
			1年	2年	3年	4年	5年					
キャリア 発展科目	応用専門概論	1			1			必	○		DP-E	
	応用専門PBL1	1			1			必	○		DP-E	
	応用専門PBL2	2				2		必	○		DP-E	
	インターンシップ	1				1		選			DP-E	
周辺領域分野 基礎科目	生活と物質	1				1		選必			DP-E	いずれか 1科目選択
	社会と環境	1				1		選必			DP-E	
生活基盤分野 物質プロセス領域	物質プロセス基礎	2				2		選必		○	DP-E	いずれか 1領域選択
	食品エンジニアリング	2					2	選必		○	DP-E	
	コスメティックス	2					2	選必		○	DP-E	
	バイオテクノロジー	2					2	選必		○	DP-E	
	高純度化技術	2					2	選必		○	DP-E	
生活基盤分野 物質デザイン領域	物質デザイン概論	2				2		選必		○	DP-E	
	環境モニタリング	2					2	選必		○	DP-E	
	エネルギー変換デバイス	2					2	選必		○	DP-E	
	食と健康のセンサ	2					2	選必		○	DP-E	
	環境対応デバイス	2					2	選必		○	DP-E	
社会基盤分野 環境インフラ領域	防災工学	2				2		選必		○	DP-E	
	社会基盤構造	2					2	選必		○	DP-E	
	環境衛生工学	2					2	選必		○	DP-E	
	維持管理工学	2					2	選必		○	DP-E	
	水環境工学	2					2	選必		○	DP-E	
社会基盤分野 環境デザイン領域	エルゴノミクス	2				2		選必		○	DP-E	
	環境デザイン論	2					2	選必		○	DP-E	
	インクルーシブデザイン	2					2	選必		○	DP-E	
	空間情報学	2					2	選必		○	DP-E	
	環境行動	2					2	選必		○	DP-E	
開設単位数合計		47	0	0	2	13	32					
必修修科目単位数		4	0	0	2	2	0					
選択必修修科目単位数		42	0	0	0	10	32					
選択履修科目単位数		1	0	0	0	1	0					
修得可能学修単位数		10	0	0	0	2	8					
修得可能単位数合計		16	0	0	2	6	8					

科目系統図（エネルギー機械コース）【2022年度以降入学者に適用】



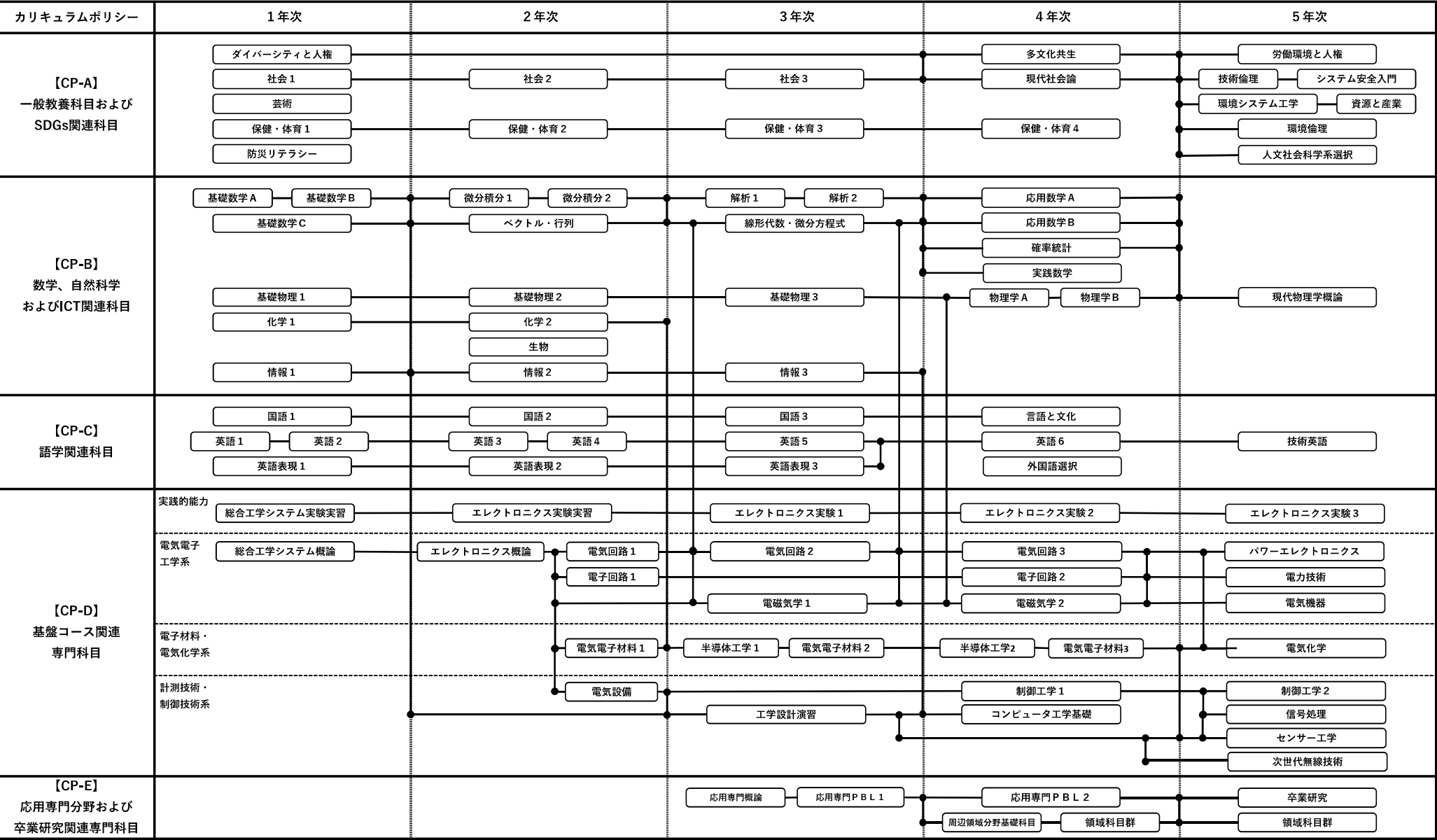
※ 領域科目群（応用専門分野）についてはp.〇〇を参照

科目系統図（プロダクトデザインコース）【2022年度以降入学者に適用】



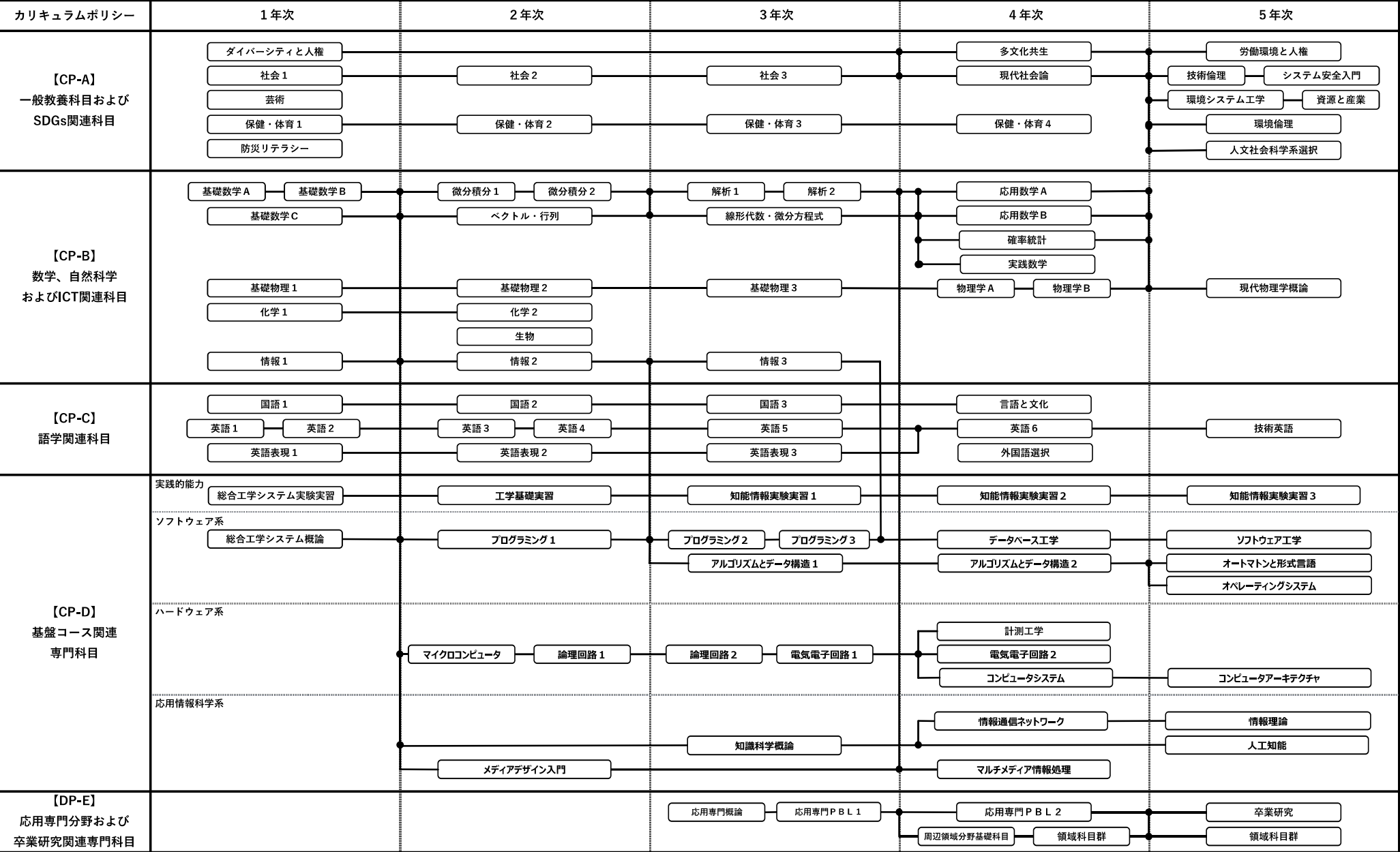
※ 領域科目群（応用専門分野）についてはp. ○○を参照

科目系統図（エレクトロニクスコース）【2022年度以降入学者に適用】



※ 領域科目群（応用専門分野）についてはp. 〇〇を参照

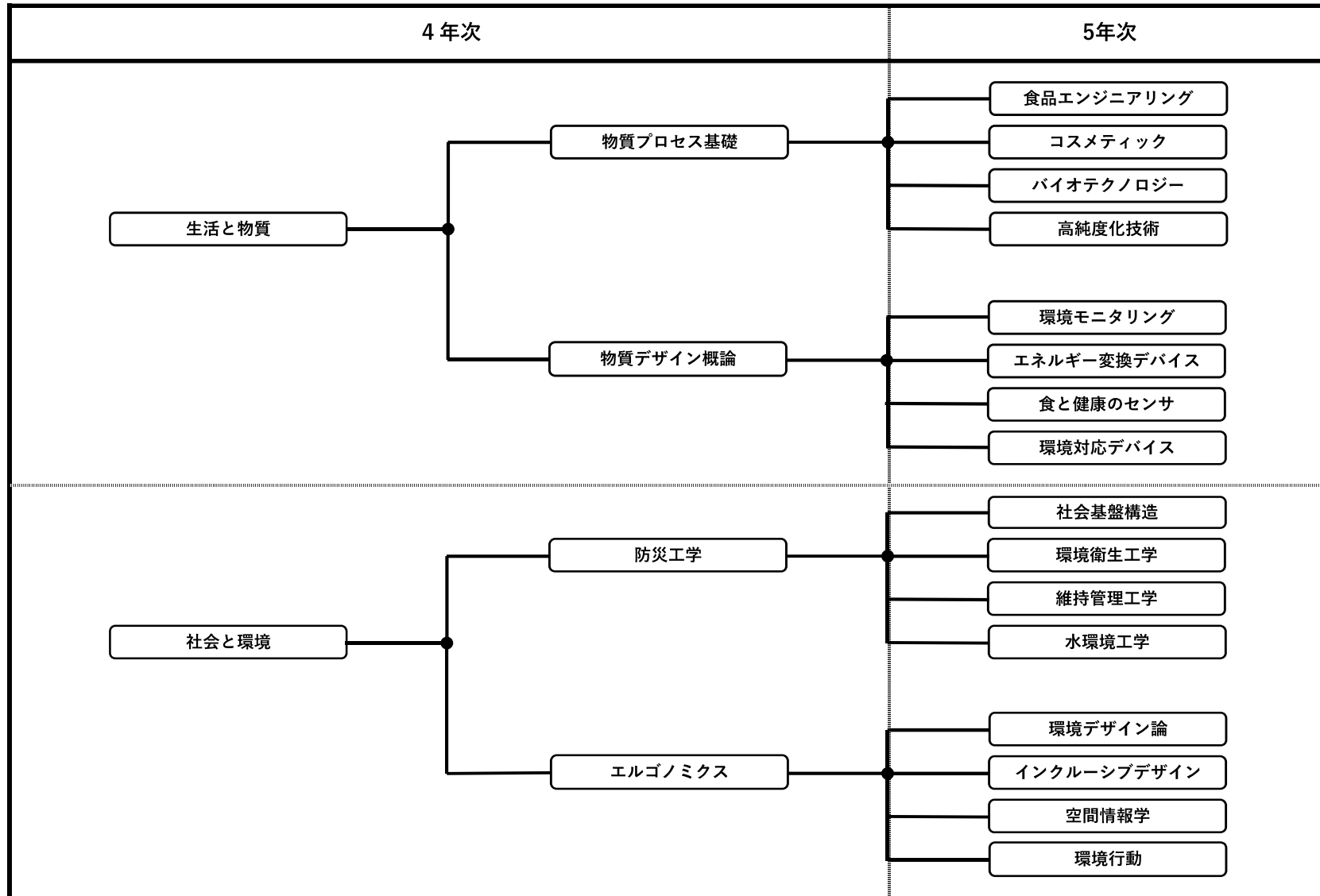
科目系統図（知能情報コース）【2022年度以降入学者に適用】



※ 領域科目群（応用専門分野）についてはp. 〇〇を参照

応用専門分野【2022年度以降入学者に適用】

カリキュラムポリシー



一般科目

【授業科目名】 国語1 Japanese1
 【学年・学科】 1年 総合工学システム学科
 【授業期間】 通年
 【単位種別】 履修単位
 【担当教員】 井上 千鶴子, 山田 伸武
 【授業の属性】
 【授業概要】

【単位数】 2単位 必履修
 【分野】 人文・社会系（一般）

【卒業要件】 DP-C
 【授業形態】 講義

評論・随筆・小説等の多様な文章を読み、それらを的確に読解する能力を身につける。漢文の訓読・書き下しができ、中国の歴史的文化的背景の一端を理解する。古文・漢文の原文に触れ古典に親しむ。漢字の読み書き能力を定着させる。

【授業の進め方】

教科書を使用して現代文・古典の読解を行う。口頭発表やレポートで、論理的な思考と表現の実践を行う。漢字学習は自主学習を基本とし問題集を使用して小テストを行う。

【科目の達成目標】

1. 多様な文章を読み、大意をつかむことができる。
2. 論理的に思考し、それを記述および口頭で表現する基本を身につける。
3. 古文で原文を読み、日本語の歴史的文化的背景の一端を理解する。
4. 漢文の訓読・書き下しができ、中国の歴史的文化的背景の一端を理解する。
5. 常用漢字程度の言葉の読み書き能力を身につける。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
導入	1	授業の概要、進め方、目標、評価方法の説明。
表現 1	5	自己紹介の作成と発表。
随想	4	随想文の読解。
要約文	1	要約文 要約文の作成について。
評論文 1	2	評論文の読解と要約。
古文	5	歴史的仮名遣等古文読解の基礎を理解する。
評論文 2	2	評論文の読解と要約。
表現 2	1	口頭による表現。
表現 3	3	手紙文の作成。
小説	10	小説の読解。
漢文	6	訓読の基礎を理解し、短い文を訓読する。
表現 4	4	口頭による表現。
漢字テスト	4	漢字検定 3 級程度の漢字の小テスト。
中間試験	4	前期中間試験、後期中間試験。
試験返却・解説	8	定期試験の返却と解説。

【授業時間外の学習】

- ・ 常用漢字は小テストを行うので、計画的に準備しておくこと。
- ・ 口頭発表の課題は準備を充分に行うこと。
- ・ 読書を推奨する。

【履修上の注意点】

【成績評価の方法】

1. 試験60%程度（授業の目標1・3・4）。
2. 小テスト・提出物・口頭発表40%程度（授業の目標1・2・5）。
3. 1、2を総合して100点法で評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】 国語 2、国語 3、言語と文化

【教科書等】 『精選現代の国語』『精選言語文化』（第一学習社）

【参考書】 『新訂総合国語便覧』（第一学習社）、
 『新常用漢字必携パーフェクトクリア【三訂版】』（尚文出版）、国語辞典

【授業科目名】 社会1 Social Study 1
【学年・学科】 1年 総合工学システム学科
【授業期間】 通年
【単位種別】 履修単位
【担当教員】 伏見 能成
【授業の属性】
【授業概要】

【単位数】 2単位 必履修
【分野】 人文・社会系（一般）

【卒業要件】 DP-A
【授業形態】 講義

私たちの暮らしは、地理的な特徴と深く結びついており、常に変化している。
 本講義では、自然地理・人文地理の基本的な見方や考え方を理解し、それらに基づいて、
 さまざまな地域や国の生活文化を主体的に考察する力を身につける。

【授業の進め方】

教科書および配布プリント、視聴覚教材等を用いて講義を行う。
 講義で学んだことを活かして、演習や課題等に取り組む。

【科目の達成目標】

1. 地形や気候に関する基礎的な知識を習得し、世界各地の人々の生活環境を考えることができる。
2. 宗教・民族・言語の多様性とその地理的背景を知り、世界各地の人々の生活環境を考えることができる。
3. さまざまな地域や国の暮らしや文化について、自ら調べてまとめることができる。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
自然地理（地形）	15	ガイダンス 営力 プレートテクトニクス 大地形
前期中間試験	1	
自然地理（気候）	12	緯度と経度 大気の大循環 気候の三要素 気候区分 さまざまな気候と農業
フィードバック	2	
人文地理	7	宗教 民族 言語
アジアの生活文化	8	アジア地誌
後期中間試験	1	
世界各地の生活文化	12	アジア以外の地誌
フィードバック	2	

【授業時間外の学習】

普段から地図帳を見ること。
 ニュースなどを見る際、物事の地理的背景を意識する習慣をつけること。

【履修上の注意点】

配布物（プリントなど）を紛失しないように、ファイルなどを使って管理すること。

【成績評価の方法】

1. 試験70%、学習に取り組む姿勢30%
2. 100点法により評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】 社会2、社会3、現代社会論

【教科書等】 『地理総合 世界に学び地域へつなぐ』（二宮書店）、『詳解現代地図 最新版』（二宮書店）

【参考書】 授業中に適宜指示する。

【授業科目名】基礎数学A Basic Mathematics A

【学年・学科】1年 総合工学システム学科

【授業期間】前期

【単位数】2単位 必履修(必修得)

【卒業要件】DP-B

【単位種別】履修単位

【分野】理数系 (一般)

【授業形態】講義

【担当教員】室谷 文祥, 鬼頭 秀行

【授業の属性】

【授業概要】

数の計算と方程式の解法を学ぶ。

中学校で学んだ2次関数に加え、べき関数・分数関数・無理関数・指数関数とグラフとの関係を学ぶ。

【授業の進め方】

講義は中学校における数学との接続に配慮しながら、教科書の展開に従って学習する。

授業中に随時演習を行い、基礎基本の確実な定着を図る。

【科目の達成目標】

1. 数の計算ができ、方程式・不等式を解くことができる。
2. 2次関数と2次方程式・不等式の関係を理解し、2次関数のグラフを描くこと、2次不等式を解くことができる。
3. 関数とグラフの関係を理解し、べき関数・分数関数・無理関数・指数関数のグラフを描くことができる。
4. 分数関数・無理関数を用いて、方程式・不等式を解くことができる。
5. 数学的な見方や考え方の良さを認識し、数学の概念を活用できる。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
ガイダンス	1	授業の進め方とシラバスの説明および授業時間外の学習について
数とその計算	10	等式・不等式の性質、実数とその性質、平方根、複素数
方程式	8	2次方程式の解法、2次方程式の解と2次式の因数分解、連立方程式
2次関数とそのグラフ	10	2次関数、2次関数のグラフ、2次関数の最大値・最小値
2次関数と2次方程式不等式	6	2次関数と2次方程式、2次関数と2次不等式
いろいろな関数	2	3次方程式・4次方程式、分数式・無理式を含む方程式
関数とグラフ	14	関数、グラフの移動、べき関数、分数関数、無理関数、逆関数
指数関数	7	累乗根、指数の拡張、指数関数
中間試験	1	前期中間試験
試験の答案返却	1	試験の返却とまとめ

【授業時間外の学習】

教科書の例題・問の予習・復習をすること。

問題集の問題を解くこと。

小テストごとに与えられる課題をすること。

【履修上の注意点】

授業中に小テストを行う。

提出課題は必ず提出すること。

必要に応じて学力補充指導を行うことがある。

【成績評価の方法】

1. 試験(70%)および小テスト・演習課題・レポート(20%)、出席状況・受講態度等(10%)を総合して
2. 100点法により評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】基礎数学B・C、微分積分1・2、ベクトル・行列、情報1・2

【教科書等】『基礎数学[第2版]』、『基礎数学問題集[第2版]』上野健爾(森北出版)

【参考書】

【授業科目名】基礎数学B Basic Mathematics B

【学年・学科】1年 総合工学システム学科

【授業期間】後期

【単位数】2単位 必履修(必修得)

【卒業要件】DP-B

【単位種別】履修単位

【分野】理数系(一般)

【担当教員】室谷 文祥, 鬼頭 秀行

【授業形態】講義

【授業の属性】

【授業概要】

基礎数学Aで学んだ指数関数に加え、対数関数・三角関数とグラフとの関係を学ぶ。

三角関数の加法定理と、加法定理から導かれる公式を学ぶ。

三角比と三角形の関係を学ぶ。

個数の処理について、順列・組合せの考え方と二項定理を学ぶ。

【授業の進め方】

講義は既習事項との接続に配慮しながら、教科書の展開に従って学習する。

授業中に随時演習を行い、基礎基本の確実な定着を図る。

【科目の達成目標】

1. 指数関数、対数関数、三角関数とその性質を理解し、グラフを描くこと、方程式・不等式を解くことができる。
2. 三角関数の加法定理と、加法定理から導かれる公式を導出し、それらを使うことができる。
3. 三角比と三角形の関係を理解し、三角形の角の大きさ・辺の長さ・面積を求めることができる。
4. 順列・組合せの概念と二項定理を理解し、数え上げや場合分け、データの分析について具体例を計算できる。
5. 数学的な見方や考え方の良さを認識し、数学の概念を活用できる。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
ガイダンス	1	授業の進め方とシラバスの説明および授業時間外の学習について
指数関数と方程式不等式	1	指数関数と方程式・不等式
対数関数	8	対数、対数関数、対数関数と方程式・不等式、対数の応用
三角関数	11	三角比の基礎、弧度法、一般角、三角関数、三角関数の性質
三角関数のグラフと方程式不等式	7	正弦・余弦・正接関数のグラフ、三角関数と方程式・不等式
三角関数の加法定理	11	加法定理、加法定理から導かれる公式、三角関数の合成
三角比と三角形への応用	8	三角形と鈍角の三角比、正弦定理、余弦定理、三角形の面積
場合の数	8	場合の数、順列、組み合わせ、二項定理
データの分析	3	分散、標準偏差、散布図、相関係数
中間試験	2	後期中間試験
試験の答案返却	1	試験の返却とまとめ

【授業時間外の学習】

教科書の例題・問の予習・復習をすること。

問題集の問題を解くこと。

小テストごとに与えられる課題をすること。

【履修上の注意点】

授業中に小テストを行う。

提出課題は必ず提出すること。

必要に応じて学力補充指導を行うことがある。

【成績評価の方法】

1. 試験(70%)および小テスト・演習課題・レポート(20%)、出席状況・受講態度等(10%)を総合して
2. 100点法により評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】基礎数学A・C、微分積分1・2、ベクトル・行列、情報1・2

【教科書等】『基礎数学[第2版]』、『基礎数学問題集[第2版]』上野健爾(森北出版)

【参考書】

【授業科目名】基礎数学C Basic Mathematics C

【学年・学科】1年 総合工学システム学科

【授業期間】通年

【単位数】2単位 必履修(必修得)

【卒業要件】DP-B

【単位種別】履修単位

【分野】理数系(一般)

【授業形態】講義

【担当教員】室谷 文祥, 鬼頭 秀行

【授業の属性】

【授業概要】

整式・分数式の四則計算を学ぶ。

集合と命題の概念を理解し、等式・不等式の証明方法を学ぶ。

平面上の直線、2次曲線および領域について学ぶ。

【授業の進め方】

講義は中学校における数学との接続に配慮しながら、教科書の展開に従って学習する。

授業中に随時演習を行い、基礎基本の確実な定着を図る。

【科目の達成目標】

1. 整式・分数式の計算ができる。
2. 集合と命題の考え方を理解し、等式・不等式の証明ができる。
3. 平面上の図形を関数と方程式を用いて表すことができる。
4. 平面上の図形の性質を理解し、方程式・不等式の問題として取り扱うことができる。
5. 数学的な見方や考え方の良さを認識し、数学の概念を活用できる。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
ガイダンス	1	授業の進め方とシラバスの説明および授業時間外の学習について
整式の計算	6	整式の加法・減法、乗法、因数分解
整式の除法	9	整式の除法、剰余の定理と因数定理、分数式
集合と論理	6	集合、命題
等式と不等式の証明	7	恒等式、等式の証明、不等式の証明
点と直線	6	直線上の点の座標、平面上の点の座標、直線の方程式、2直線の関係
平面上の曲線	14	円、2次曲線、2次曲線と直線
平面上の領域	6	不等式の表す領域、領域における最大値・最小値
中間試験	3	前期中間試験および後期中間試験
試験の答案返却	2	試験の返却とまとめ

【授業時間外の学習】

教科書の例題・問の予習・復習をすること。

問題集の問題を解くこと。

小テストごとに与えられる課題をすること。

【履修上の注意点】

授業中に小テストを行う。

提出課題は必ず提出すること。

必要に応じて学力補充指導を行うことがある。

【成績評価の方法】

1. 試験(70%)および小テスト・演習課題・レポート(20%)、受講態度・出席状況等(10%)を総合して
2. 100点法により評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】基礎数学A・B、微分積分1・2、ベクトル・行列、情報1・2

【教科書等】『基礎数学[第2版]』、『基礎数学問題集[第2版]』上野健爾(森北出版)

【参考書】

【授業科目名】基礎物理1 Introduction to Physics 1

【学年・学科】1年 総合工学システム学科

【授業期間】通年

【単位数】2単位 必履修

【卒業要件】DP-B

【単位種別】履修単位

【分野】理数系 (一般)

【授業形態】国語

【担当教員】松永 博昭

【授業の属性】

【授業概要】

物理学は、系統的な観測・実験・理論的考察を通じて、自然現象の背後にある普遍的な法則を追求する学問である。「基礎物理1」では、中学校までの数理的素養を前提に、物理学の基幹をなす力学の初歩について学ぶ：よく使う基本的な数学、運動をどう表現するか、力の性質、運動の法則、仕事とエネルギー、保存量。

物理現象を系統立てて取り扱うためには、併行して学ぶ「基礎数学」、2年次に学ぶ「ベクトル・行列」や「微分積分」の知識や考え方も必要となる。特に、力学には3年次までに身につけるべき「解析」や「線形代数・微分方程式」の知見も随所に散りばめられているので、丁寧に学習してほしい。数学の授業で扱った内容をすぐに応用したり必要に応じて先取りするので、必要な知識があれば物怖じせずに学習するという姿勢を身につけることも目標とする。授業中の質問や議論を推奨し、演習時間には自由に席を移動して周囲と議論してよい。

【授業の進め方】

授業資料を配布し、プロジェクターと板書により授業を進める。予習課題を課すので、事前に解いておくこと。授業中に問題演習・解説も多く行い、必要に応じて議論の時間を取る。演示実験・動画教材・シミュレータなども適宜活用する。講義の節目に、学生による指定問題の発表・解説および学生実験を実施する。

【科目の達成目標】

- 1 速度や加速度について理解する。
- 2 力の性質を理解し、力のつり合いについて理解する。
- 3 運動の法則を理解し、簡単な問題に適用できる。
- 4 仕事と力学的エネルギーについて理解する。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
ガイダンス	1	
力学でよく使う数学	11	科学的記数法、有効数字、物理現象の記述 弧度法、三角関数、ベクトル、成分表示 基本的な用語や算術、関数、近似
速度と加速度	6	速さと速度、平均速度と瞬間速度、速度の成分、速度の合成、相対速度 平均の加速度、瞬間の加速度、等加速度直線運動
重力のもとでの運動	4	重力加速度、自由落下、鉛直投射運動、斜方投射運動
力と運動の法則	10	力のはたらき、力の表し方、力の成分、力のつりあい 運動の三法則、運動方程式、抗力、摩擦力
圧力と浮力、抵抗力	2	圧力、大気圧、浮力、抵抗力
仕事と力学的エネルギー	10	仕事、仕事率、運動エネルギー、位置エネルギー、保存力 力学的エネルギー保存則、エネルギー保存則 熱エネルギー、質量比熱、熱量の保存
学生による演義および実験	12	指定された問題についての発表・解説、学生実験
中間試験	4	

【授業時間外の学習】

予習：授業予定と課題を配付するので、教科書の該当範囲を読み、予習課題を解く。

復習：都度、配布教材および問題集の該当範囲を解く。実験後：実験データの処理と解析。

また、希望者には発展的な内容の教材を配布・紹介する。

【履修上の注意点】

試験は記述式であり、発展的・総合的な問題も多く出題する。物理は基本から積み上げて理解することが非常に大切なので、分からないことは自分で調べたり質問するなどして早く解決すること。特に、物理の理解には「ある程度の数の問題演習」は必須なので、自分の手で計算すること。試験・授業中は関数電卓を用いてよい。

【成績評価の方法】

- 1 定期試験の成績80点、提出物30点、演習問題の発表・解説10点で総合評価する。
ただし、100点を超えた点数は切り捨てる。原則として「中間試験後の仮成績」の評価は行わない。
- 2 100点法により評価し、60点以上を合格とする。
2年次コース選択の参考のため、前期終了後に「その時点における成績」を通知する。

【関連科目】基礎数学、英語

【教科書等】総合物理1,2 國友正和 他著 (数研出版)

【参考書】リードα 物理基礎・物理
フォローアップドリル 物理基礎1,2

【授業科目名】 化学1 Chemistry 1
 【学年・学科】 1年 総合工学システム学科
 【授業期間】 通年
 【単位種別】 履修単位
 【担当教員】 西田 博一, 北野 健一
 【授業の属性】
 【授業概要】

【単位数】 3単位 必履修
 【分野】 理数系 (一般)

【卒業要件】 DP-B
 【授業形態】 講義

物質の構成粒子と化学結合についての基本的概念、物質と化学反応の量的関係、および酸塩基反応、酸化還元反応、化学平衡に関する基本的な原理と法則を学ぶ。

【授業の進め方】

講義は教科書とプリントを用いて行い、問題集を用いた演習で理解の定着を図る。
 また、講義内容に沿った実験を行って理解を深めるとともに、探究活動を行わせて化学的に探究する能力と態度を身につけさせる。

【科目の達成目標】

1. 純物質と混合物、物質の構成粒子と化学結合、物質とモル濃度、化学反応の量的関係を理解する。
2. 酸と塩基、水素イオン指数、中和の量的関係、塩の生成と性質について基本的な原理を理解する。
3. 酸化還元反応を電子の授受として理解する。
4. 化学平衡の法則を理解する。
5. 化学的に探究する能力と態度を身につける。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
導入	1	授業の概要、進め方、目標、評価方法の説明
物質の成分と構成元素	5	物質の成分、物質の構成元素、状態変化と熱運動
原子の構造と元素の周期表	8	原子の構造、イオン、元素の周期表
物質と化学結合	10	イオン結合、共有結合、金属結合
原子量・分子量・式量	4	原子量、分子量、式量
物質と質量	6	物質と質量、物質と質量、物質と体積
溶解と濃度	4	溶解と溶液、質量パーセント濃度、モル濃度
化学変化とその量的関係	8	化学反応式、化学変化の量的関係
酸と塩基・水素イオン指数	6	酸と塩基、水の電離、pH、指示薬とpH測定
中和反応	8	酸と塩基の中和、中和滴定、滴定曲線、塩の生成
酸化と還元	4	酸化と還元の定義、酸化数
酸化剤と還元剤	6	酸化剤と還元剤、酸化還元の化学反応式、金属の酸化還元反応
電池と電気分解	6	電池のしくみ、実用電池、電気分解、ファラデーの法則
化学反応の速さ	4	化学反応の速さと濃度・圧力・温度、活性化エネルギー、触媒
化学平衡	8	可逆反応と平衡、平衡移動、平衡定数、電離平衡
中間試験	2	前期中間試験および後期中間試験

【授業時間外の学習】

- 【事前学習】 次の時間に習うと予想される範囲の教科書をあらかじめよく読んでおくこと。
 【事後学習】 習った範囲について教科書の問いや節末問題、問題集の問いを解いておく。
 授業中に課題が出された場合は必ず期限までに提出すること

【履修上の注意点】

実験の時間は実習服と保護メガネを忘れずに持参すること。

【成績評価の方法】

1. 試験を中心にレポートなどの提出物(90%)と、実験や探究活動への取り組む姿勢(10%)などを通して各達成目標に対する到達度を評価する。
2. 100点法で評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】 化学2、応用専門科目

【教科書等】 『高等学校 化学基礎』山内薫ほか(第一学習社)、『高等学校 化学』山内薫ほか(第一学習社)
 【参考書】 『2024新課程版セミナー化学基礎+化学』第一学習社編集部(第一学習社)

【授業科目名】保健・体育1 Health and Physical Education 1

【学年・学科】1年 総合工学システム学科

【授業期間】通年

【単位数】2単位 必修

【卒業要件】DP-A

【単位種別】履修単位

【分野】保健・体育（一般）

【授業形態】実験・実習

【担当教員】橋爪 裕, 中田 裕一

【授業の属性】

【授業概要】

多種目経験型で実施する各種スポーツの合理的な実践を通して、自己の「感覚」の変化に気付き、順応する能力を高め、運動習熟の過程や方法を学習する。また、身体の基礎的な生理的機能や心の健康について学習し、自己の「心身」の調子を整える力を深める。

【授業の進め方】

実技:年間を通して、「体ほぐし」の運動と「体づくり」の運動を準備運動として行う。6つの種目を設定し、主として基本技術の習得に重点をおく。また、実技を通じて、体育理論を学習する。

理論:教科書を使用し、保健・体育の知識を深める。

【科目の達成目標】

1. 健康や体力の向上・改善を目的とし、身体の基礎的な生理的機能を理解する。
2. 多様な運動(単純・複雑)を通し、身体に関わる理論的・感覚的な理解を深める。
3. 各種競技を通じて、それに必要な基本技術を習得する。
4. 自分自身の「体力」を測定・分析し、適切な目標を設定することができる。
5. 持続的な身体能力を高める。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
体力測定	3	8種目測定(体育館・グラウンド)・自己記録分析
走り高跳び	6	基礎的な技術の理解・実践(はさみ跳び・ペリーロール) 実践(フォームチェック・工夫・技術向上ポイント確認)
バスケットボール/バドミントン	13	■バスケットボール 基本動作(パス・ドリブル・シュート)・簡易ゲーム ■バドミントン(原則、バドミントンは女子対応種目) 基本動作(各種ストローク:サーブ・プッシュ・ドロップショット) ラリー・簡易ゲーム
水泳	5	クロール・平泳ぎの基礎・25mタイム計測・300m泳
柔道	13	礼法・基本動作・受け身(後ろ・横・前回り) 投げ技の理論(膝車・出足払い・小内刈り・大腰)・固め技
バレーボール (ソフトバレーボール)	9	ボール遊び・基礎的な動作(ボールコントロール) 基本的なドリル(対人レシーブ)・簡易ゲーム プログラミングによる役割分担・役割確認
持久走	5	15分間走・1500m/1000m走 記録計測(偏差値算出) 自己記録の分析
理論	6	スポーツ科学 健康と現代社会・心と健康 思春期と性

【授業時間外の学習】

■レポート作成(体力測定、前期課題、後期課題、講義内容に関する課題、実技見学)

【履修上の注意点】

- 実技はネックレス・ピアス等の装飾品をはずし、所定の服装で参加すること。水筒を必ず持参すること。
- 体調を整えて参加すること。また、自分・他人の安全に十分配慮して参加すること。
- 体調不良の場合は必ず自己申告すること。

【成績評価の方法】

1. 100点法により達成目標1～5を総合的に評価し、60点以上を合格とする。
基礎運動20点(準備運動・持久走を含む) 運動課題50点 レポート30点 (未提出の場合:各5点減点)
2. 基礎運動を実施しない場合は4点を減点、見学した場合は2点を減点とする(見学者:レポート提出必要)。

【関連科目】なし

【教科書等】改訂新版保健体育概論 近畿地区高等専門学校体育研究会編 晃洋書房

【参考書】ステップアップ高校スポーツ2024 大修館書房

【授業科目名】 英語1 English 1
【学年・学科】 1年 総合工学システム学科
【授業期間】 前期
【単位種別】 履修単位
【担当教員】 川村 珠巨, 中田恵理子
【授業の属性】
【授業概要】

【単位数】 2単位 必履修
【分野】 外国語（一般）

【卒業要件】 DP-C
【授業形態】 講義

英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を適切に活用して高校初級レベルの読む・聞く技能を中心とした能力を身につける。

【授業の進め方】

テキストの内容および語句・表現に関するポイントを解説し、内容理解のための英文の聞き取りや音読練習を行う。また、理解した内容を簡単な英語で表現する練習も行う。

【科目の達成目標】

- 1 高校初級レベルの英文を読んで理解できる。
- 2 発音・アクセントなどに注意しながら、英文を聞き取ったり音読したりできる。
- 3 英文に現れる語句や表現を身につける。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
導入	1	授業の概要、進め方、目標、評価方法の説明
	2	中学で学んだ英語の復習
	1	英和辞典・PCの使い方に関する指導
演習	30	英文を読んで理解する活動
	10	語句・表現および文法に関する指導
	2	発音・アクセント等に関する音声指導および練習
	2	英単語学習
	10	英語を聞き、話す活動
中間試験	1	
試験の振り返り	1	

【授業時間外の学習】

家庭での予習、復習を習慣化すること。
図書館にある多読教材や、インターネット上にある英語学習教材を積極的に活用し、継続して「自主練」に取り組むこと。

【履修上の注意点】

辞書（紙の辞書または電子辞書）を準備し、活用すること。

【成績評価の方法】

- 1 試験（60%）と平常成績（40%）で評価する。
- 2 100点法によって評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】 英語2、英語表現1

【教科書等】 『Crossroads English Communication I』（大修館）ほか

【参考書】 『Vision Quest 総合英語 3rd Edition』（啓林館）、英和辞典、和英辞典

【授業科目名】 英語2 English 2
【学年・学科】 1年 総合工学システム学科
【授業期間】 後期
【単位種別】 履修単位
【担当教員】 川村 珠巨, 中田恵理子
【授業の属性】
【授業概要】

【単位数】 2単位 必履修
【分野】 外国語（一般）

【卒業要件】 DP-C
【授業形態】 講義

英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を適切に活用して高校初級レベルの読む・聞く技能を中心とした能力を身につける。

【授業の進め方】

テキストの内容および語句・表現に関するポイントを解説し、内容理解のための英文の聞き取りや音読練習を行う。また、理解した内容を簡単な英語で表現する練習も行う。

【科目の達成目標】

- 1 高校初級レベルの英文を読んで理解できる。
- 2 発音・アクセントなどに注意しながら、英文を聞き取ったり音読したりできる。
- 3 英文に現れる語句や表現を身につける。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
導入	1	授業の概要、進め方、目標、評価方法の説明
演習	30	英文を読んで理解する活動
	10	語句・表現および文法に関する指導
	2	発音・アクセント等に関する音声指導および練習
	2	英単語学習
	8	英語を聞き、話す活動
	3	TOEIC Bridge IPテスト準備
英語運用能力テスト	2	TOEIC Bridge IPテスト
中間試験	1	
試験の振り返り	1	

【授業時間外の学習】

家庭での予習、復習を習慣化すること。
 図書館にある多読教材や、インターネット上にある英語学習教材を積極的に活用し、継続して「自主練」に取り組むこと。

【履修上の注意点】

辞書（紙の辞書または電子辞書）を準備し、活用すること。

【成績評価の方法】

- 1 試験（60%）と平常成績（40%）で評価する。
- 2 100点法によって評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】 英語1、英語表現1

【教科書等】 『Crossroads English Communication I』（大修館）ほか

【参考書】 『Vision Quest 総合英語 3rd Edition』（啓林館）、英和辞典、和英辞典

【授業科目名】 英語表現1 English Expression 1

【学年・学科】 1年 総合工学システム学科

【授業期間】 通年

【単位数】 2単位 必履修

【卒業要件】 DP-C

【単位種別】 履修単位

【分野】 外国語（一般）

【授業形態】 演習

【担当教員】 西野 達雄

【授業の属性】

【授業概要】

基礎的な英文法を体系的に理解するとともに、その知識を身近な話題について、英語で情報や考え、意図などを表現したり、伝え合ったりする活動において適切に活用できる基礎的な技能（書く・話す（やり取り）技能）を身につける。

【授業の進め方】

2時間のうち、1時間は日常的な場面や話題に基づく会話（やり取り）や自分の考えや情報を相手に伝える練習（発表）を行う。もう1時間は基礎英文法の学習を参考書やワークブックを使って行う。

【科目の達成目標】

1. 基礎的な英文法を理解することができる。
2. 身近な話題について英語で表現することができる。
3. 身近な話題について英語で会話することができる。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
導入	1	授業の概要、進め方、目標、評価方法の説明
基礎英文法演習	4	文の種類、文型と動詞
	6	時制、完了形
	6	助動詞、受動態
	9	不定詞、動名詞、分詞
スピーキング	15	日常的な場面や話題に基づく会話（やり取り）の練習
ライティングと発表	15	自分の考えや情報を相手に伝える練習（発表）
中間試験	2	
試験の振り返り	2	

【授業時間外の学習】

事前に指示された予習や復習、練習をするとともに、英語力を高めるための自主的な努力をすること。

【履修上の注意点】

辞書を常に準備し、活用すること。

【成績評価の方法】

1. 試験（60%）および平常成績（40%）で評価する。
2. 100点法により評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】 英語1, 英語2

【教科書等】 『EARTHRISE English Logic & Expression』（数研出版）他

【参考書】 Vision Quest 総合英語 3rd Edition

【授業科目名】	音楽 Music	【単位数】	2単位 必履修(選択)	【卒業要件】	DP-A
【学年・学科】	1年 総合工学システム学科	【分野】	芸術 (一般)	【授業形態】	演習
【授業期間】	通年				
【単位種別】	履修単位				
【担当教員】	木村 安佐子				
【授業の属性】	実務経験のある教員による授業				
【授業概要】	世界の音楽に触れ、歌唱や演奏を通して音楽とは何かを考える。				

※実務経験との関係

本科目はピアノの演奏活動、劇伴等録音、また講師の実務経験のある教員により、歌・器楽・鑑賞を通して広く音楽について学びを深める授業を行う科目である。

【授業の進め方】

演奏曲にまつわる背景について学び、日本語その他の言語に触れながら音楽を深く味わう。

【科目の達成目標】

1. 月間目標：演奏することを楽しみながら、その曲を深く理解し豊かに演奏する。
2. 年間目標：音楽の始まりとその役割について考える。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
導入	1	授業の概要・進め方、目標・評価方法の説明
校歌	4	歌唱、写譜（記譜法の説明）
リコーダー	9	グリーンスリーブス
独唱 1	8	少年時代 他
鑑賞 1	4	映画「Sing Street 未来へのうた」
独唱 2	8	よろこびの歌 他
鑑賞 2	8	世界の音楽
独唱 3	6	日本の歌、世界の歌、J-pop
合奏	1 2	風になりたい

【授業時間外の学習】

歌唱、楽器の練習をする。
あらゆる音楽に触れる。

【履修上の注意点】

＜準備物＞ソプラノリコーダー、A4ノートを購入する。
＜その他＞提出物は必ず出すこと。

【成績評価の方法】

1. 出席状況・授業態度（30%）および実技試験（70%）で評価する。
2. 100点法により評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】

【教科書等】『音楽 I Tutti+』新実徳英ほか（教育出版）

【参考書】

【授業科目名】	美術 Fine Art	【単位数】	2単位 必履修(選択)	【卒業要件】	DP-A
【学年・学科】	1年 総合工学システム学科	【分野】	芸術 (一般)	【授業形態】	演習
【授業期間】	通年				
【単位種別】	履修単位				
【担当教員】	西村 有理				
【授業の属性】	実務経験のある教員による授業				
【授業概要】	クロッキー等で観察・発見の力をつけ、テーマに沿った創作実習で、課題解決・客観的表現・伝える姿勢を養う。				

※実務経験との関係

平面・立体デザインと映像制作について実務経験のある教員により、美術実技の授業を行う。

【授業の進め方】

手作業の創作と、コンピューターでの創作を、実習形式で行う。

【科目の達成目標】

1. 創作の、アイデアから表現にいたるプロセスを理解する
2. 色彩や明暗の、視覚に及ぼす効果について学び、コントロールする基本を身に付ける
3. 自然の観察とクロッキー・デッサンを通して、客観的なものの見方を身に付ける
4. CGの技法を学び、Web上の美術のあり方を理解する
5. 共同制作では、チームでの目標の共有と、技術協力の方法を理解する

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
導入	1	授業の概要、進め方、目標、評価方法の説明
風景鉛筆画	4	鉛筆画の基本説明および実習
平面デザイン	15	平面デザインの基礎課題の実習
彩色画	10	彩色画の実習
切り絵	8	切り絵表現の実習
コラージュ	2	イメージコラージュの作成
ゾートロープ	2	ゾートロープの作成
クロッキー	2	クロッキーの基本説明および実習
2DCG	16	画像系の2DCGソフトを使った実習

【授業時間外の学習】

課題に関係する資料調べ

【履修上の注意点】

【成績評価の方法】

1. 課題の提出状況(60%)、課題への取り組み態度・出席状況(40%)を総合して評価する
2. 100点法により評価し、60点以上を合格とする

【関連科目】

【教科書等】『美術1』酒井忠康ほか(光村図書)

【参考書】

【授業科目名】 書道 Calligraphy**【学年・学科】** 1年 総合工学システム学科**【授業期間】** 通年**【単位数】** 2単位 必履修(選択)**【卒業要件】** DP-A**【単位種別】** 履修単位**【分野】** 芸術 (一般)**【授業形態】** 演習**【担当教員】** 小森 勇人**【授業の属性】** 実務経験のある教員による授業**【授業概要】**

手本を真似する技法が書写であるとすれば、書道とは一体何なのか。長年に亘り人類を魅了してきた書の古典作品を学び、書と文字と美の本質に迫る。また、作品発表・相互批評を通じ、互いの感性を磨く。

※実務経験との関係

本科目は、現役の書家である教員により、書道の基礎を学ぶ科目である。

【授業の進め方】

毛筆中心の授業で、課題を書作する。

書道史の学習を通じ、文化としての書道について説明する。

【科目の達成目標】

1. 日常の身近な手書き文字や、芸術としての書道に関心を持つことができるようになる。
2. 線質と筆、墨、紙との関係に関心を持ち、毛筆の特性や技法を身に付ける。
3. 書表現の重要性・必要性を、書作を通じて感じ、自己表現できるようになる。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
導入	2	授業の概要、進め方、目標、評価方法の説明、準備物の確認
鑑賞	2	書作品の鑑賞法を学ぶ
行書	12	行書の古典作品を臨書する
楷書	8	楷書の古典作品を臨書する
隸書	4	隸書の古典作品を臨書する
篆書	2	篆書の古典作品を臨書する
篆刻	12	石印材を使用し、印を制作する
仮名	4	仮名の古典作品を臨書する
現代の書	6	漢字仮名交じりの書や、前衛的な書作品を制作する
作品制作	6	テーマに沿った作品の制作・発表をする
総括	2	書道とは何か、自らの考えをまとめる

【授業時間外の学習】

日常、身の周りにある字に目をとめ、その表現意図を考える。

自分の普段書いている字を見つめなおす。

【履修上の注意点】

汚れても良い服装で履修すること。

ペンなどの筆記用具、のりを持参してください。

【成績評価の方法】

1. 出席状況・授業態度 (30%)、課題の提出状況・出来栄 (70%) を総合的に評価する。
2. 100点法により評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】

【教科書等】 『書Ⅰ』：高木聖雨ほか（光村図書出版）、『篆刻の実習』：蓑毛政雄（教育図書）

【参考書】

專門共通科目

【授業科目名】 総合工学システム概論 Introduction to Technological Systems

【学年・学科】 1年 総合工学システム学科

【授業期間】 前期

【単位数】 1単位 必履修(必修得)

【卒業要件】 DP-D

【単位種別】 履修単位

【分野】 専門共通

【授業形態】 講義

【担当教員】 土井 智晴, 杉浦 公彦, 倉橋 健介, 川上 太知

【授業の属性】

【授業概要】

総合工学システム学科のカリキュラムの全体像と、2年次からの基盤コースと3年次からの応用専門分野の教育内容を理解した上で、将来の進路選択に必要な知識を獲得し、キャリアイメージを明確にするための体験や調査活動を行う。

日本における高専制度の役割や本校のカリキュラムの変遷に加えて、基盤コースと応用専門分野の教育内容の紹介を4つの基盤コースに所属する教員により実施する。

【授業の進め方】

また、グローバル化を見据えた進路選択について考えるほか、専門分野やDXに関連する最先端の機器を体験する。これらの学習を通じて自らのキャリアイメージを想像しながら専門教員の協力による調査活動を行い、2年次以降のコース配属に備える。

【科目の達成目標】

1. 産業社会における高専制度の位置づけと本校の教育課程の変遷を知る。
2. 4つの基盤コースと2つの応用専門分野の概要、科目、教員の専門分野を知る。
3. 高専卒業生の進路の概況を知り、産業社会の変遷やグローバル化に対応した進路選択に必要な知識を得る
4. 専門分野やDXに関連する機器の体験と専門教員との対話を通じて、将来のキャリアに関する調査と発表

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
ガイダンス	1	本科目の実施計画、授業の進め方、成果物の提出方法
高専制度と本校教育課程のあり方 SDGs/Society5.0	1	産業社会における高専制度の位置づけと本校の教育課程の変遷
/数理データサイエンス	2	持続的な発展可能な社会を創造するためのマインドとスキル
基盤コースの紹介	4	4つの基盤コースの概要、科目、教員の専門分野
応用専門分野の紹介	2	2つの応用専門分野の概要、科目、教員の専門分野
将来の進路選択	2	高専卒業生の進路の概況、就職と進学によるキャリアイメージ
グローバル化とDX	6	広い視野とデータに基づく行動、働き方についての考察
各専門分野に関連する機器の体験	4	設計、製作、計測、シミュレーションなど、基盤コースに関連する最先端の機器の体験
将来のキャリアイメージの具体化	8	基盤コースと応用専門分野の教員へのインタビューに基づく、将来のキャリアイメージの可能性に関する調査と成果発表

【授業時間外の学習】

各回の授業内容はしっかりとメモし、次回の授業開始時までにはその内容を整理してレポートとしてまとめること。調査活動は授業時間外にも行わなければならない場合があるので計画的に行動すること。

【履修上の注意点】

本校が目指すカリキュラムの全体像を知るための重要な科目であるため、遅刻や欠席をしないように受講すること。提出物の期限は厳守すること。高専では興味・関心を持って取り組むべき活動が多いため、本科目の調査活動も「アクティブ・ラーニング」の一環として積極的に取り組むこと。

【成績評価の方法】

1. 【科目の達成目標】の1～4に記載した各項目について、レポート、成果物および発表内容で評価する。
2. 評価方法1の各項目の評価点を平均して100点法で総合成績を評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】 総合工学システム実験実習

【教科書等】 なし

【参考書】 『令和06年 ITパスポート 合格教本（情報処理技術者試験）』岡嶋裕史（技術評論社）

【授業科目名】 総合工学システム実験実習 Elementary Practice of Technological Systems

【学年・学科】 1年 総合工学システム学科

【授業期間】 通年

【単位数】 4単位 必履修(必修得)

【卒業要件】 DP-D

【単位種別】 履修単位

【分野】 専門共通

【授業形態】 実験・実習

【担当教員】 野田 達夫, 君家 直之, 平林 大介, 難波 邦彦, 中谷 敬子, 田村 生弥, 土井 智晴, 山野 高志, 西田悠人

【授業の属性】 実務経験のある教員による授業

【授業概要】

4つの基盤コースに関連する製作や現象の計測を通じて工学への興味と関心を持ち、基礎的な実技能力を習得する。

※実務経験との関係

計算機援用設計に関する実務経験がある教員により実施される。

【授業の進め方】

全クラスを8つのグループに分けて、4つの基盤コースに関連する実習を行う。
実習テーマごとに報告書の作成を行い、基本的な文章や図表の表現能力も身につける。
また、基盤コースの教員との面談を行い、今後の基盤コース配属や将来の進路選択に備える。

【科目の達成目標】

1. 4つの基盤コースに関連する体験的学習を通じて、工学への興味と関心を持つ。
2. 実験や実習における安全対策、整理整頓を含めた、基本的な知識と素養を身につける。
3. 各種製作、計測、観察のための基本的な知識と技術を身につける。
4. 実験や実習で得られた結果を報告書としてまとめるための基本的な知識を身につける。
5. 自身の興味や将来のキャリアイメージに合う基盤コースへの配属に備える。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
ガイダンス	2	実験実習の概要と進め方、授業の目標、評価方法の説明
ICT関連ツールの活用方法	6	情報基盤センターの施設、コミュニケーションツール、Google Classroom、クラウドツールの使用方法
スターリングエンジンの組立	12	部品の組立と分解、部品寸法の測定、動作性能の評価
熱の可視化、燃料電池、水処理	12	熱計装置の使用、部品組立と分解、シミュレーション比較
2次元CADを用いた設計演習	12	2D CADを用いた設計演習、設計データの扱い
3次元CADを用いた設計演習	12	3D CADを用いた設計演習、データ変換、3Dプリンタによる造形
micro:bit電子回路実習	12	Make Codeを使用したロボットプログラミング、無線通信
ブレッドボード電子回路実習	12	酸素センサ、簡易吸光光度計、導通テスターの組み立て
プログラミング体験	12	Scratchプログラム、Webサイト開設、JSによる3D空間作成
CGビジュアライゼーション	12	3DCGイメージの作成とプレゼンテーション
基盤コース教員との面談	12	基盤コースの特色と学生自身のキャリアイメージの確認
実験実習の総括と補充指導	4	本科目の総括、学生によるアンケート評価、未提出物がある学生に対する補充指導

【授業時間外の学習】

各テーマで提出が求められる成果物や報告書の提出期限に遅れないように、適宜授業時間外にも取り組むこと。

【履修上の注意点】

提出物の期限は厳守すること。また、服装など指示されたものは必ず着用し、事故やけがに注意すること。
遅刻は厳禁とする。安全管理の観点により、実験実習への参加を認めない場合がある。

【成績評価の方法】

1. 【授業の内容】に記載した8テーマについて、出席状況と受講態度（50%）、および成果物と報告書（50%）を考慮して、50点満点で評価を行う。
2. 評価方法1の評価点を積算した400点を4で除した100点法で総合成績を評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】 総合工学システム概論

【教科書等】

【参考書】 実習の手引き

【授業科目名】 情報1 Information Technology 1

【学年・学科】 1年 総合工学システム学科

【授業期間】 後期

【単位数】 2単位 必履修

【卒業要件】 DP-B

【単位種別】 学修単位

【分野】 専門共通

【授業形態】 演習

【担当教員】 新妻 弘崇, 田村 生弥, 倉橋 健介, 白柳 博章

【授業の属性】

【授業概要】

日常的な生活や教科学習のなかでコンピュータとネットワークを安全に利活用するための知識とスキルを実践的に学ぶ。また、情報通信関連の法規・制度に加え、情報モラルに基づき、情報社会のなかで加害者／被害者にならないための考え方・知識・行動について身近な事例を取り上げつつ学ぶ。さらに、数理・DS・AI、情報通信機器のソフト／ハードウェアについて、基礎的な用語・仕組み・活用法を学ぶ。

【授業の進め方】

各自のノートPCと学内LANを利用してハンズオン形式で授業を進める。資料の配付や課題の管理にGoogleClassroom やGoogle フォーム などを使用する。なお、PC操作スキルについては個人差が極めて大きいため、極端にPCに不慣れな学生は、適宜、自分から周囲の学生にサポートを依頼すること

【科目の達成目標】

1. 日常的な生活や学習で情報通信技術を利用することの有効性を理解し実践できる
2. 情報社会において加害者／被害者にならないための知識と考え方を持ち、行動ができる。
3. 数理・データサイエンス・AIの入門的スキルを持ち、それら技術の社会的影響や課題を考えることができる。
4. 情報通信機器のソフト／ハードウェアに関する基礎的な用語や仕組みを理解できる

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
導入	1	授業の概要、PCのセットアップと利用上の注意
解説と演習	3	Windowsの基本機能と設定、ファイルとアプリケーションの管理
	2	WordとExcelを快適に利用するために知っておくべき機能と設定
	2	様々なウェブサービスの利活用
	2	PCと周辺機器の選定
	2	CMSとオンライン共同作業ツールの利活用
	2	情報のデジタル化と表現
	2	プログラミングの学習環境と勉強方法
	2	情報モラルとサイバーセキュリティ
	2	データリテラシー（データサイエンス入門）
	2	Excelによるデータ処理と統計処理
	2	Google Workspace の利活用
	2	XR (VR/AR/MR) 技術、AI技術
	2	スマートフォンアプリの利活用と通信技術の基礎
中間試験と解説	2	中間試験の実施と返却、解説

【授業時間外の学習】

この科目は学修単位科目であり、1単位あたり15時間の対面授業と30時間の授業時間外の学習が必要となる。授業時間外では、指示された課題に取り組むとともに、スキルチェックシートに基づき自身の状況を把握しながら主体的かつ積極的に達成目標の到達に努めること。

【履修上の注意点】

毎回、授業には充電済みのノートPCを持参すること。また、技術者にとってPCは仕事のためのツールであることを強く意識し、日常的に積極的に利活用して知識とスキルの修得に努めること（ゲームや娯楽動画等といったコンテンツ消費のためのツールではないことを意識すること）

【成績評価の方法】

1. 科目の達成目標について、試験50%、課題などの提出物50%の割合で総合して評価する。
2. 100点法により評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】 情報2、情報3

【教科書等】 情報リテラシー入門 2024年版』中川祐治ほか（日経BP）

【参考書】 適宜、授業において紹介する。

【授業科目名】ダイバーシティと人権 Diversity and Human Rights

【学年・学科】1年 総合工学システム学科

【授業期間】前期

【単位数】1単位 必履修

【卒業要件】DP-A SDGs科目

【単位種別】履修単位

【分野】専門共通

【授業形態】講義

【担当教員】中山 良子, 栗本 敦子

【授業の属性】

【授業概要】

権利の主体としての自分と社会との関係から、多様性について考察し、社会の構造や自分の社会的立場について認識を深める。
人々が多様性を生かしつつ差別を克服しようとしてきた経緯を知るとともに、一人ひとりがどのように他者や社会に働きかけるのか、その具体的な方法を身につける。

【授業の進め方】

毎回のテーマに関するアクティビティを行い、その後、講義を通して知識や考え方に対する理解を深める。

【科目の達成目標】

1. 社会のなかにある多様性を、差別との関連で捉え直すことができる。
2. 社会の構造と自分の社会的立場について考えることができる。
3. 人権・特権・差別・平等などの概念について、説明することができる。
4. 誰もが生きやすい社会の構築を目指し、他者や社会に働きかけるための具体的な方法を考えることができる。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
ガイダンス	2	ダイバーシティとは何か？人権とは何か？
そもそも人権とは？	2	あらためて人間とは何かを考え、人権の概念を整理する
人権は進化する	2	人権の考え方の変遷を学び、これからの人権について考える
「わたし」と人権	2	一人ひとりの多様性と個人のかけがえのなさについて向き合う
全ての人が尊重されるということ	2	多様な人のいる場で、誰もが安心できるとはどういうことか考える
差別は「する」？「ある」？	2	社会のなかにある構造としての差別に目を向け、何ができるかを考える
マジョリティ・マイノリティ	3	マジョリティ・マイノリティについて、社会の力関係をふまえてとらえる
前期中間試験	1	
特権とは	2	マジョリティのもつ特権から人権をよみとく
みんな同じ＝平等？	2	「平等」についてさまざまな角度から検討する
対立は悪くない	2	対立に肯定的に向き合い、扱い方の基本について学ぶ
わたしとあなたを尊重する	2	「境界線」の考え方を知り、コミュニケーションのスキルを身につける
情報の取り扱い	2	SNSと人権とのかかわりについて考察する
よりよい社会を目指して	2	誰もが生きやすい社会をつくるために、何ができるか考える
フィードバック	2	

【授業時間外の学習】

教科書の発展学習や、出された課題に取り組む。
提供された資料を丁寧に読む。
時事問題や日常的な出来事への関心をもち、授業内容と関連させて考える。

【履修上の注意点】

教科書を毎回持参すること。
アクティビティには積極的に参加すること。
課題への主体的な取り組みを期待する。提出期限は厳守すること。

【成績評価の方法】

1. 試験60%、提出物等40%
2. 100点法により評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】多文化共生、労働環境と人権

【教科書等】『これからの社会を生きていくための人権リテラシー（第2版）』北樹出版

【参考書】授業中に適宜指示する。

【授業科目名】防災リテラシー Literacy for Disaster Risk Reduction

【学年・学科】1, 2, 3, 4年 総合工学システム学科

【授業期間】通年

【単位数】1単位 選択

【卒業要件】DP-A SDGs科目

【単位種別】履修単位

【分野】専門共通

【講義形態】演習

【担当教員】土井 智晴, 檜崎 亮, 岩本 いづみ

【授業の属性】

【授業概要】

社会生活における様々な場面で、あるいは所属する組織において、減災・防災のリーダーとなるべく、災害を理解し減災・防災に関する知識・意識・技能を習得する。

【授業の進め方】

文献資料やビデオ(DVD)教材等により諸事例の考察を行い、減災・防災に関する知識を習得する。
災害が多発する先進国である日本で生きていくために、最低限知っておくべきことを学ぶ。現実の社会での出来事にも関心を持って学習し、将来、防災リーダーとして活躍してもらうことを期待している。

【科目の達成目標】

1. 防災に関する基礎知識を理解する。
2. 災害発生時の対応について理解する。
3. 防災対策や災害直後から復興に向けての対応、インフラ整備やまちづくりについて理解する。
4. 災害のリスクを減らす手法や災害に備えた事業継続計画の作成などについて理解する。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
大震災の後のできごと	2	災害の種類、構造、対応の基本を学ぶ。
震災と住宅	2	災害の後の住まいの移りかわりについて学ぶ。
地震・津波の話	2	地震はなぜ日本に多いのかについて学ぶ。
災害情報	2	災害時の情報、避難行動について学ぶ。
火災	2	火災の性質、建物での火災、コンビナート災害などについて学ぶ。
地盤災害	2	降雨や地震による土砂災害と地盤沈下などについて学ぶ。
災害と法	2	災害に関する法について学ぶ。
ライフラインの被害と復旧	2	電気、水道、下水、鉄道、道路などの大災害での被害について学ぶ。
南海トラフの地震と津波	2	南海トラフの地震について考えられていることについて学ぶ。
台風、豪雨災害などの自然災害	2	台風および豪雨災害等の発生メカニズムなどについて学ぶ。
エネルギーと地球温暖化対策	2	多様化するエネルギーと災害の関連性について学ぶ。
原子力と災害	2	原子力の基礎と原発事故災害などについて学ぶ。
◎クロスロードゲーム	4	災害時、直面するであろう選択をゲームを通じて学ぶ。
◎防災マップ	2	自宅から避難所までの防災マップを作成する。

【授業時間外の学習】

防災マップの作成、クロスロードゲームの事前準備など、授業の終わりに指示する。

【履修上の注意点】

受講者は教科書を各自で購入すること。

◎クロスロードゲームへの参加と防災マップ作成は実験実習科目に相当するので必ず参加・実施して、成果物も提出すること。

【成績評価の方法】

1. 集中講義や実習に2/3以上の出席者に対して試験を実施し、評価する。
2. 試験 (50%)、レポート・授業への取り組み姿勢 (50%)を総合評価する。
3. 100点法により評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】

【教科書等】『防災リテラシー (第2版)』太田・松野 (森北出版)

【参考書】

